

南洋 平記 ② 太閤 南見

沢田 秀穂

(2) バンコクからキャンベラまで

3月4日 エカフェ事務局邦人局員の夫人方 二組のご夫妻 数年来の同僚であるフィリピン人地質家F氏夫妻の見送りをうけて出発 夫人連からは家内へ大きな洋蘭の花 これはこの空港で見送りの時よく贈られるもので 茎の切口に脱脂綿に水をひたしたものをあて 上から葉でまいてあり 時とすると数日間ももつことがある。10人近くの方々の見送りとはいは 晴れがましすぎるが この国の人々の方が はるかにこれを上回る盛大な見送りをするから この空港では めだつというほどではない。

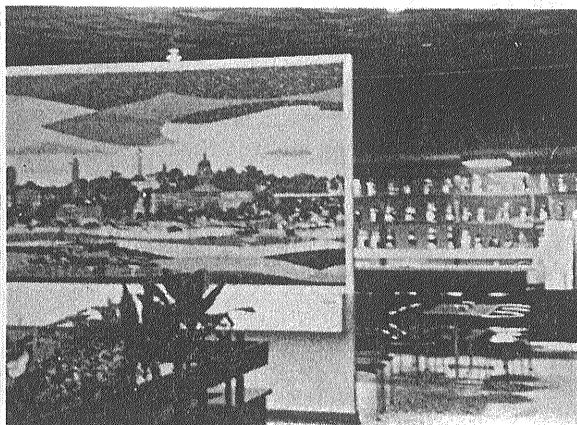
今日は待合室の外の通路まで冷房されていて - こんなことはじめてだが - まことに涼しくおおいに助かる。バンコクはすでに最夏季が始まろうとしているのだから 10分ほど待ってすぐ飛行機にのりこみ また5分ほどして15時33分離陸とすこぶる具合がいい。暑い時 飛行機の中で待たされるのはたとえ5分間でも非常な苦痛である。乗客は30人ほど 機はキャラベル880 飛行はすこぶる快適で全然ゆれぬ。16時夕食 カレー入り芝エビのカクテル ローストチキン やきめし サラダ みかんとクリーム フランスパン1個とバター コーヒー。日本航空のエハガキを4通日本あてたのむ。この時はただでだしてくれたが 後日ニュージーランドからフィジーへとんだ時の BOAC ではフィジーからだして下さいとことわられた。

17時30分 (バンコク時刻) シンガポール空港着。
ここの時計では18時。 緑のジャングルにかこまれた

ヤシの木がすぐ近くまである。土堤のような草の斜面に大きく SINGAPORE とかいてある。日本航空の係員がここでおりる邦人の世話をよくみている。われわれはかまわれぬ 邦人乗客の中には奥さんが3人 中には小さな坊やを2人もつれている人がある。夫人連のほほは白くまた桃色で美しい。皆緊張しているのがよくわかる。税関は荷物を開けず 青衣のインド人らしいポーターが2人荷物をとりあうようにしてもってカントスのオフィスへ。ここは冷房した待合室の外にあって冬衣をきている私には暑い暑い ポーターはあまり長くおれないと金をせく。ついたばかりで現地の金は一文もない切符をあずかったカントスの女の子は不なれだと自分でいってまごまごしている。再三再四ポーターが金をせくと女史は私にどうぞ金をかえてきて下さいという。ポーターに案内させて銀行へ ところが誰もいない ポーターはさらにすぐわきの香水などの店に案内する 先客のアメリカ人らしい老婦人が旅券をだして何かうらがきしてもらっていて 私をみてニツと笑う。老婦人が腰をあげ米1ドルをおやじが2.75 マレードルにかえ ポーターに1マレードルをやり二人でわけろという あとみずに帰っていく Thank you ともいわない。待合室にはインド人が一杯いて 色の黒い子どもがさわぎ回っている うるさくかつくさい。下は木のベンチだが二階には黒革のソファがある。ここまではインド人は入ってこない その代りすぐウェイターがきて用をきく オレンジスカッシュ二つ 1.20 マレードル。隣の席では白人1人とシナ人らしい若いカップルが話している。ミキモトといって真珠をだしている様子。レストランのスケッチをしていると 真珠の話をしていたシナ人の男がNice shot とおせじをいっていく Thank you! マッチを求めるとウェイターが盆にのせてもってきた小さなのが5マレーセント。家内がバンコクの空港でいただいたきた洋蘭はすでに黒ずんで縮んできた。20時シンガポール時刻 暑気が激しいせ



シンガポールからシドニーまでの QUANTAS 航空の機内壁にオーストラリアの草の絵がかいてある



シンガポール空港のバー 左の壁面はモザイクのシンガポール風景

いであろうか。

22時10分ようやく出国事務開始 飛行機の客席番号札とオーストラリアの入国関係書類とをホチキスでいっしょにとめたものをうけとる これはかしこいやり方だのりこんだらすぐかけばいいし うすい一枚の紙をどこかへやってしまう心配も少なく スチュワーデスたちの手数もはぶける。 22時25分のりこむ オーストラリア方面へ行く外人学生で満員。 22時50分シンガポール空港離陸 となりはマレーシアの学生でビクトリア州のグラマースクールへ入るのだという。 申告書の中でポータブルラジオを贈物の項にもかくべきかとときく はじめ自分が使い後でやりたきゃやればい い今は少なくとも君のものだろうと答える。

24時パース時刻 お茶とサンドイッチ サンドイッチはバター たまご ハムの三種で三角形に切ったものおいしくて二回もらう。 これからニュージーランドを離れるまで40日間 サンドイッチには毎日おめにかかることになる。 払暁3時47分パース空港着 ここはオーストラリア入国最初の空港で 税関以外の入場関係事務は全部ここでやる。 事務は4時20分に終了

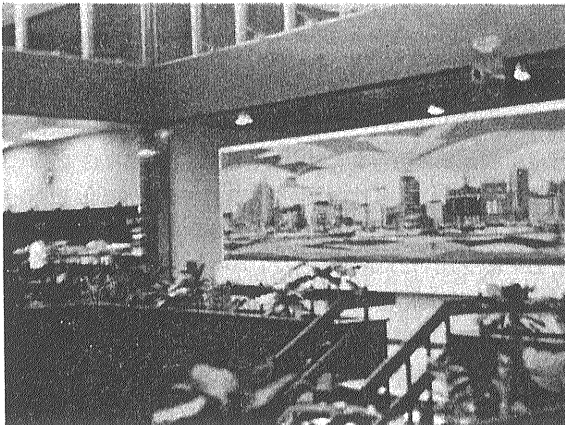
パース空港につく直前3時30分になると機内にあかりをつけ スチュワードが熱いむしタオルをくばって歩かねぼけてイヤイヤをする客もありスチュワードを苦笑させる。 着陸すると一番はじめにカーキ色の制服の検査官がのってきて二つのスプレーをかかげて菓をまきながら機内をとる。 日本の場合と同じだが 検査官がくるのがおくれて乗客をいらいらさせたりしなかったのはいい。

空港の検査の部屋は普通の会社のオフィスか病院の感じで 医師はセビロをきていかにも医官的。 出入国の所では客に列をつくらせ すいた所へ入口の制服の officer がお客をわけてくばる これは1964年マニラの空港でもやっていたが 多数の係官が客を扱える時にはいい方法で 羽田もこの方式をとったらいいだろうと思う。

Immigration Officer はその旨のバッジをつけている いずれも上衣をぬいでシャツ姿 四人ほどの係官の他に1人上官らしい人がうしろにいて 係官は不明の点があるとこの人にきいている。 係官はきさくにはっきり乗客にたずねつつ書きいれる。 私にあたった係官はビザの発行所 時を入れ忘れ 廊下の途中までとんできてまたきく 長身瘦軀中老の係官であったが ききおわった後でいねいに Thank you, sir といってまたかけもどっていく。 どこの入口にも制服の係官がいて客一人一人の行く先をたしかめてからとおす。 待合室の入口にも立っていて客一人宛に対し一々あけて入れる。 そして morning とアイサツをくれる。 待合室はシンガポール空港のよりやや小さい程度で 建物は平屋の模様 手洗いは入口のとびらに男女の顔が黒いプラスチックでえがきだしてある これはシンガポール空港と同じ。 建物の不要の部分では全部消灯してある。 手洗いの小の方はステンレスのオープンのもので日本の国鉄で以前みられたスタイルだがきわめて清潔 顔がうつる様だ 2センチ角位の桃色のナフタリンが流路にまいてある - シンガポールでは白い陶器で個々に分かれたものであった - このステンレスのものはその後オーストラリアやニュージーランドの方々でみられ 公衆用手洗には一般的のもののようにみうけた。

どのへやも静かで officer たちは一言も不要のことはいわない。 Ground hostess も淡緑色の制服に身をかため 直立したガチョウのようにだまっている。

今度の旅で初めてアジアの外に出 白人の国へきたのであるが なんと安心感が大きいことか われわれの常識がそのまま通用し 事務や所有物や自分自身についての安心感 他のアジアの国々では感ずることが全くできない安心感 そして残念ながら 日本よりもその安心感は大い。 インドやその西の方のある国々がこれと対照的といえる。



シンガポール空港 二階パーの壁面



シンガポール空港のターミナルビル

4時30分機内にもどる。この時のパース空港の気温は摂氏15度 きわめて快適 機内のサービスは スチュワード3人 ホステス2人の内 夜のせいもあるのかおもにスチュワードがする。席につくと窓の外側のガラスに水滴のこまかいのがついている 高空をとんできたため ガラスが冷えていたせいであろうか。うるんだターミナルの灯がうしろにゆっくりながれてゆく キャンデー二つ グレープジュースがうまい。4時55分動きだすとスチュワードがさらに冷たいタオルをくばる 4時59分パース離陸。5時10分はや地平線は赤と青すでに身は薄明の長い中緯度の地にあることを知る。機内は灯を消し客も皆静かとなりシンガポール以来 ほとんど不断の活躍をしていたスチュワードたちも しばしまどろんだとみえ動かなくなる

6時30分 朝食 コーンフレークスとミルク ロールパンとバター ママレード グレープフルーツ 大きな羊肉のソーセージが三つ 家内がメニューをみて注文すると とくにココアをも用意してもってきてくれる。いささかわれわれには重すぎる朝食 となりのマレーの学生はほとんど何もたべず 水を注文する すこしよたらしいいきりに何やら菓をのむ。

パース時刻で8時 シドニー時刻で10時 機はすでに下りはじめる。今までの赤茶けた空々漠々たる窓外のけしきによりやく緑色がふえ 小さな家のならぶのをみると思ううちに 現地時刻10時35分シドニー空港につく この空港の建物も大部分平屋で客は皆歩いてゆく。検疫も入国管理もすでにパースですんでるので ここでは税関だけ。婦人1人を含む四人ほどの税関吏が手わけして客を扱う。機中でかきいれておいた申告書をだしチェックやかきいれをうけ 荷物の入ってくる部屋にゆく。この4人のオフィサーのうしろにまた1つ高い机があって その前に上官らしい年配の男子のオフィサーが全体に目をくばっていて それが決して形式的にはない。荷物の入ってくるへやに入るとわきに直立してまっていた二人の今度の会議の接待係官が それぞれ名のり握手をし 通関と国内航空への荷物うつしを手伝ってくれる。トランクは飛行機から運ばれ コンクリートの床の上に並べられている中から自分でえらびだし手荷物といっしょに制服の年配の運搬係が運んでくれる。チップはいらない 荷物はあけず すぐ国内航空の方へ回される 出迎えの二人の内地理のH氏は45才位でキャンベラからこの役目のため特派された人 もう一人のF氏は22才位の事務官。二人につれられて二階のレストランへ上り水とレオンデジュースを頂く。しばらくしてもっとも年上と思われる地理技師がみえる この人は

シドニーに駐在している由 よなれた人扱いのじょうずなおだやかなおじさん H氏はあまりこうしたことにはなれていないでつとめている様子がみえる。最も若いF氏はどこかでみたことのあるような素朴な感じの青年。いろいろ話す内シドニーでどこかへ行かないのかという話に 今日のはただのりかえただけで 帰りにできれば友人のいる郊外の石炭研究所にいきたいと思うというと会議に出席予定のオーストラリア人で この研究所を知ってるはずだという人の名を教えてくれる。

シドニーからキャンベラへは2つの国内航空会社が運航していて 別々のターミナルビルをもっている。きょう乗るのは私立の方で 国際航空の建物から約300mほど離れていて 雨がふっており 黒ぬりの政府のくるまで運んでくれた。もう一つの政府所有の国内航空のビルはすぐ前にあるという。

このターミナルビルはアットホームの感じがする。子供づれの見送りらしい人々もたくさんいて 今日の日曜だから半ズボンの人や盛装の人やいろいろである。有色人種はほとんどみあたらない。売子 航空会社の係員が皆清潔な感じの白人。ゴミを片づけて歩く男も白人なのがやや奇異に感じられる。観葉植物をうえた長方形の砂ばこにチューインガムのかみかすが一つ

三人のオフィサーにお忙しいだろうからどうぞ引とって下さいと再三いうと12時15分 ようやく「他にお客がまだくるから」といって別れる。

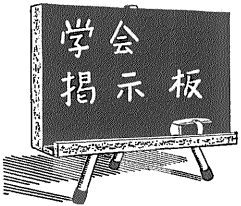
13時40分 AN61便のりこむ 機はパイカント 客はわれわれを入れて19人 ホステスが二人 飛行機の通路にしいてあった白い布をホステスがひっぱってとりさる 小雨がふっていたから敷いたのであろうか。13時50分シドニー空港離陸 雨と雲で何もみえない。14時8分雲上にでる。機長の放送によると高度16,000フィート のみものサービス ビスケット コーヒーはただ オレンジジュースをたのむと これは小さな缶入りで10セントとられる。14時35分下り始め 14時40分牧歌的なキャンベラ空港につく。

キャンベラ空港の建物は平屋で小さい。もちろん税関も何もない。オーストラリア側の会議事務局長他二人の職員と国連事務局の地図課長と課員が迎えにきてくれた。C氏はマニラの会議でもすっかり厄介になった有能なギリシア系米人で 会議の実際の運営は彼が中心となって行なわれる。シドニーからいっしょの日本代表団の一人K社のO部長とわれわれ三人 大きな黒いくるまで宿舎へ送られる。これも政府のくるまで運転手は制服制帽のレッキとした連邦政府職員である。美しい公園のような郊外 道はアスファルトの簡易舗装の

せまい二車線 家々は大きくはないが みなうらやましい庭をもっている。

宿舎のRホテルは四階建てのこの街では最も大きいホテル ドアマンはなく 受付係は30代と思われる婦人ほかに誰もいない。ボーイは頭のはげた50代の人で重い荷物をもってもらうのがいたいたい。エレベーターは三人とボーイと荷物のくるまが ゆっくり四階の部屋まで荷物を運んでくれたボーイに20セントわたすとサンキューサーといってすこぶるスマートにうけとる。部屋は十二畳位の大きさと 北側に窓を広くとって明るいここは南半球の温帯だから太陽はいつも北側にある。

窓の下から調節のきく空気がでてくる。ベッドはツインで80センチ×180センチほど ちょっと大きな人には小さいのではないかと思われる。ともかくゆうべよく寝ていないので眠くてたまらず 16時30分ベッドへもぐりこむ。19時30分 30才位のルームメイドにおこされる ベッドを作りきたのだ。これからもしいつまでもねていたかったらこれを外へだしといて下さいと 前のへやから “Please do not disturb” の紙札をもってきてくれる。今日は仕事はしなくていいからよく休んでくれという さっきのC氏の言に従ってさらに眠り続ける。
(筆者は元所員 現在バンコク エカフエ事務局員)



・日本地質学会

- 1. 昭和42年10月11日 (水)~14日(土)
- 2. 日本地質学会 第74年総会ならびに日本地質学会 日本鉱山地質学会 日本鉱物学会 日本岩石鉱物鉱床学会 日本粘土学会 連合学術大会

京都大学農学部応用植物学教室

Tel. 京都 (075) 77-8111 (代表)

・日本分光学会

- 1. 昭和42年 8月29日(火)~30日(水)
- 2. 「分光技術の公害測定への応用」講習会
- 3. 東京工業試験所 (渋谷区本町1-1)
- 4. 日本分光学会
- 5. 東京都新宿区百人町4-400 東京教育大学光学研究所内 日本分光学会 [Tel.東京(03)362-7881]

3. 名古屋大学 (豊田講堂 教養部)

名古屋市千種区不老町

4. 日本地質学会行事委員会

5. 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部地質学教室 日本地質学会

Tel. 東京 (03) 812-2111 (内線2432)

・物理探鉱技術協会

- 1. 昭和42年10月17日(火)—19日(木)
- 2. 昭和42年度鉱業関係学協会合同秋季大会
- 3. 九州大学 (福岡市 箱崎町)
- 4. 日本鉱業会 物理探鉱技術協会その他
- 5. 東京都中央区銀座西8-7 日本鉱業会 Tel. (03) 572-5091 川崎川崎市久本135 地質調査所内 物理探鉱技術協会 Tel. 川崎 (044) 83-3171

・石炭科学国際会議

- 1. 昭和43年 6月10日~14日
- 2. 石炭化作用・熱分解・ガス化・石炭組織に関する講演会
- 3. Mining Institute of the Czechoslovakia, Academy of Science
- 4. 石炭科学国際会議
- 5. Mining Institutit of the Czechoslovak Academy of Science, Praha.

日本岩石鉱物特殊技術研究会

- 1. 昭和42年 7月26日27日28日
- 2. 第10回研究発表会 (金属 非金属 構造地 質耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会)
- 3. 新潟大学理学部地質学教室 (新潟市西大畑町5,214)
- 4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
- 5. 川崎市久本 135 地質調査所内 日本岩石鉱物特殊技術研究会 Tel. 川崎 (044) 83-7131 内線211

・石炭科学部会

- 1. 昭和42年11月 9日(木)~11日(土)
- 2. 第4回石炭科学 (石炭の地球科学・組織・化学的性質・加工等に関する講演会)
- 3. 九州大学工学部
- 4. 燃料協会石炭科学部会
- 5. 東京都中央区銀座4-5 西銀座ビル内 燃料協会 東京 (03) 561-3760

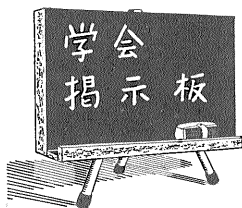
日本海洋学会

- 1. 昭和42年 8月25日 (金)~29日 (火)
- 2. 昭和42年度秋季大会 (水産海洋学シンポジウムほか)
- 3. 東北大学農学部 (仙台市北六番丁210)
- 4.5. 日本海洋学会 東京都中野区柴町通1-28 東京大学海洋研究所気付 Tel. 東京 (03) 376-1251

・日本花粉学会

- 1. 昭和42年10月11日 (水)
- 2. 花粉学・花粉分析・花粉応用
- 3. 神戸大学 (神戸市)
- 4. 日本花粉学会
- 5. 京都市左京区北白川

[注] 1. 開催年月日 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者 5. 連絡先 (掲載順位は原稿到着順)



・石炭科学国際会議

1. 昭和43年6月10日～14日
2. 石炭化作用・熱分解・ガス化・石炭組織に関する講演会
3. Mining Institute of the Czechoslovakia, Academe

my of Science

4. 石炭科学国際会議
5. Mining Institute of the Czechoslovak Academy of Science, Praha.

・石炭科学部会

1. 昭和42年11月9日(木)～11日(土)
2. 第4回石炭科学(石炭の地球科学・組織・化学的性質・加工等に関する講演会)
3. 九州大学工学部
4. 燃料協会石炭科学部会
5. 東京都中央区銀座4-5 西銀座ビル内
燃料協会 東京(03)561-3760

・国際写真測量学会

1. 昭和43年7月8日～20日
2. 第11回国際写真測量学会
撮影および航法 図化理論および機械 航空三角測量 地形測量 地形測量以外への応用 用語・教育および歴史 写真判読の7つの部会ごとに あらかじめ決定された重要な主題について 決められた報告書の報告をもとにして討論を行なう
3. スイス ロザンス
4. 国際写真測量学会・スイス写真測量学会
5. Secretariat du XIe Congress International de Photogrametrie: Institute de Photogramme Hrie EPUL
33 Avenue de Cour, 1000 Lausanne, Suisse.

・国際粘土会議

1. 昭和44年9月5日～15日
2. 1969年国際粘土会議(粘土鉱物の結晶構造 成因その他)
3. 日本
4. 国際粘土研究連会 (Association International Pour l'Etude des Argiles-AIPEA)
5. 東京都文京区大塚3丁目
東京教育大学理学部地質学鉱物学教室内
1969年国際粘土会議組織委員会

・日本分光学会

1. 昭和42年11月16日(木)～18日(土)
2. 第3回応用スペクトロメトリー
東京討論会
3. 科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2-1)
4. 日本分光学会外4学会共催
5. 東京都新宿区百人町4-410
東京教育大学光学研究所内
日本分光学会 Tel 東京(03)362-7881

・日本分光学会

1. 昭和43年3月30日(土)～4月1日(月)
2. 第15回応用物理学関係連合講演会
3. 東京工業大学(目黒区大岡山2-12-1)
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400
東京教育大学光学研究所内
日本分光学会 Tel 東京(03)362-7881

・日本第四紀学会

1. 昭和42年10月28日(土) 13:30
2. 例会
3. 東京教育大学理学部会議室
4. 日本第四紀学会
5. 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部地理学教室内
日本第四紀学会

・日本地理学会

1. 昭和42年10月31日(火)～11月1日(水) 9:00～17:00
2. 1967年度秋季学術大会
3. 愛知教育大学(愛知県岡崎市明大寺町)
4. 日本地理学会
5. 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部地理学教室
日本地理学会

・日本海洋学会

1. 昭和42年11月14日(火) 10:30～16:00
2. 11月例会
3. 東京大学海洋研究所大講議室
4. 日本海洋学会
5. 東京都中野区南台1-15-1
東京大学海洋研究所内
日本海洋学会 Tel(03)376-1251

[注] 1. 開催年月日 2. 会合名 3. 会場
4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)